

ところ会 9月 OP 行事案内

狭山三十三観音を巡る 第3回

狭山湖周辺にある狭山三十三観音を4回に分けて回ります。
今回は狭山丘陵南側の第17番霊性庵～第25番福正禅寺まで歩きます。

記

■日 時：平成29年11月9日（木）
9:30 東村山駅改札の外に集合して下さい。

■見学場所及び時間：コース全長 約11km

所沢駅(9:21)・・・東村山駅西口(立川駅北口行バス 9:38)貯水池入口下車
⇒17番霊性庵⇒東大和市郷土博物館⇒18番雲性寺⇒昼食：ガスト
⇒19番はやし堂⇒20番真福寺⇒21番原山観音堂⇒22番吉祥院
⇒23番慈眼寺⇒24番禅昌寺⇒25番福正禅寺⇒殿ヶ谷バス停
⇒バスで東大和駅経由 所沢着(予定時間 17:00頃)

■昼食：ガスト東大和蔵敷店 11:30～ 042-590-7210



伝兵衛地蔵

台座に享保・宝暦の年号が刻まれています。昔、清水村に代々伝兵衛を名乗る旧家がありました。分家の倅が行方不明になり八方手をつくして尋ねましたが見つかりません。心配した本家の伝兵衛さんはお地蔵さんを建てて祈願したところ、まもなく無事に分家の倅が帰ってきました。喜んだ伝兵衛さんはお地蔵さんを自分の屋敷に移して供養をしました。村の人は伝兵衛地蔵と呼んでお参りするようになり、誰いうとなく子育て地蔵と呼んでお参りしています。また、地元の人達にブロックで囲んでもらい、魔のカーブの守り神となっています。



狭山神社

狭山神社は、東大和市狭山にある神社です。狭山神社の創建年代等は不詳ながら、天狗明神を祀っており江戸時代には天狗社、あるいは天宮大明神などといわれ天狗の面を掲げていました。大正12年(1923)村山貯水池の湖底に沈んだ御霊神社を合祀して祭神に加えました。



17番霊性庵：如意輪観音

真言宗智山派寺院の霊性庵は、東大和市狭山にある庵室で圓乗院が管理しています。霊性庵は、賢誉法印(平治元年1159年寂)が開山となり創建したといえます。御朱印は圓乗院で頂きます。

本尊は、如意輪観世音菩薩で、作者は恵心僧都といわれ、長さ八寸の坐像が安置されています。



二ツ池公園

水田の用水池として、丘陵からの湧き水を集めて、二つ並んでつくられたのが二ツ池です。その下の方の池が公園の一



部として残されています。[東京の名湧水 57 選](#) に選ばれた湧水ですが、湧水は僅かなようです。前川の源流です。

18 番雲性寺：十一面観音

本尊は、十一面観世音菩薩で、長さ一尺二寸の坐像が安置されています。真言宗豊山派で、永享 11 年（1439）に堂宇建立と伝えられています。年代等是不詳ながら、当地の地頭職を務めていた旗本石川太郎右衛門家代々の墓があったといえます。



山門は箱根本陣の一の門として使われていたものをもらい受けて、昭和 26（1951）年に設置したものです。

山門の下の庚申塔は、昭和 42（1967）年に奈良橋庚申塚から移転されました。また、本堂の中にも正徳 6（1716）年の年号のある、珍しい形の庚申塔が安置されています。この庚申塔は、上部に八葉の蓮華を座とした月輪を浮彫し、その月輪の中に梵字「ア」字を陰刻したもので、「阿字庚申」と名付けられています。庚申講中が造立した庚申塔とはその趣を異にする市内唯一の稀な塔です。下部の三猿も、中央前向、左右横向に浮彫されており、めずらしい三猿配置です。塔の裏面に、正徳六丙申三月、法印伝栄と陰刻されています。

現在、庚申塔は本堂に安置されていますが、その台座は現在もその位置にあります。

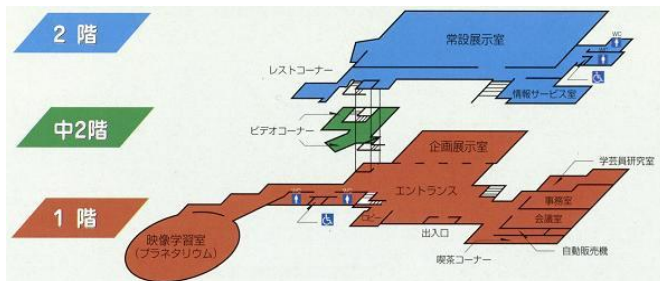
東大和市郷土博物館

入館料：無料

（プラネタリウムは
300 円 平日は 15 時から、
休日は 11 時、13
時、15 時）

「狭山丘陵とくらし」
「東大和のあゆみ」
「東大和のくらし」

「狭山丘陵の自然」の 4 つの部分で、狭山丘陵の成り立ちや東大和の歴史、民俗、雑木林との関わりなどについて展示しています。



昼食：ガスト東大和蔵敷店(100 席)

☎042-590-7210

19 番はやし堂：如意輪観音

本尊は、如意輪観世音菩薩で、作者は行基といわれ、高さ九寸の像が安置されている。はやし堂という名は建立当時、この辺りが雑木林に囲まれていたためと言われている。御朱印は蓮華寺で。



大橋の地藏堂

享保 13 年(1728)に、中藤村の村人たちによって造立された。現在でも信仰を多く集めていて、無病息災や交通安全を願って、献花や折鶴などが奉納されている。向いには石橋供養塔がある。

20 番真福寺：聖観音（百体観音）

真福寺は、和銅 3 年（710）、行基が創建。奈良時代に（1220）に落雷によって焼失し、その後龍性法師（正応 3 年 1290 年寂）が中興したといえます。江戸時代には寺領 20 石の御朱印状を拝領していました。現在の本堂は、安永七年（1778）の建立で本尊は薬師如来。観音堂も江戸時代の建立で、江戸時代の中頃から奉納され始めた百体観音が安置されています。

真福寺の文化財（市指定文化財）

真福寺梵鐘：寛永 15 年（1638）に檀家の協力により鑄造された。宝暦年間（1751～63）に当寺が火災にあった際、亀裂が入り撞けなくなったので、この山門楼上にかけられている。



格天井花鳥画：天保 10 年（1839）に石川文松によって、本堂外陣の格天井に描かれました。

一般に百花百鳥といわれていますが、牡丹等の植物が 100 枚のほか、鳥類が 64 枚、色彩や構図を変えた鳳凰が 35 枚、そして中央部分に龍の絵が 1 枚配置され、合計で 200 枚描かれています。



格天井花鳥画、本堂前に写真がある

作者の石川文松は、山口観音の六歌仙絵馬、仏蔵院の杉戸絵、妙善院の鳳凰図をはじめ、狭山丘陵周辺の寺社に多くの絵を残しました。青梅の出身で、絵を谷文晁に学び、一時勝楽寺村に住んだが、晩年は三ヶ島村で過

ごし、妙善院の飛び地の薬師堂にあった小庵に住んだ。安政4年（1857）60歳で亡くなった文松の墓は妙善院の山門近くの無縁仏の中にあります。

原山の地蔵尊

「享保四歳念仏供 原山村」と記されている原山の地蔵尊は、このあたりの土地のお祭りのときに、人が殺められ、その供養のために村人によって建立されたといわれている。今でも子育て地蔵尊として、信仰されています。

21 番原山観音堂：正観音（聖観音）

原山観音堂の創建年代等は不詳ながら、かつては観音寺と称していたといえます。御朱印は乙幡様宅。

千手観音や十一面観音等、一口に「観音」といっても色々ありますが、それらは密教が出て来たら観音を目的別に分化させたもので、元々「観音」は一人でした。色々な種類が増えてから、元々の観音を他の観音と区別して、聖観音と呼ぶようになりました。この経緯から、正観音とも書きます。

観音菩薩の中でも基本となる姿が聖観音で、その他の十一面観音、千手観音、不空罽索観音、如意輪観音、馬頭観音を総称して**六観音**といえます。更に、准胝(じゅんてい)観音を加えると**七観音**といえます。



22 番吉祥院(きちじょういん)：正観音

横龍山吉祥院の本尊は聖観音で、曹洞宗長圓寺の末寺で、江戸時代のはじめ開山されたと伝えられています。江戸時代の末頃には寺子屋であったといわれています。明治時代には、第一小学校の前身である吉祥学舎が置かれていました。御朱印は長瀬様宅。



23 番慈眼寺：聖観音

慈眼寺の創建年代等は不詳ながら、亀雲が開山となり創建したといえます。明治年間には村山第二小学校として学校に供用されていました。御朱印は高山様宅。



24 番禅昌寺：聖観音

岸清山禅昌寺は、臨済宗の禅寺で室町時代の正長元年（1428）開山されたと伝えられています。江戸時代に強風でお堂が壊れ、文化14年（1817）に再



観音堂

建されました。現在の本堂は、昭和 46 年に建てられたものです。観音堂は文禄 3 年（1594）の創建と伝えられます。

村山土佐守像：武蔵七党の一つ村山市最後の人物で殿ヶ谷に居館があったと伝えられています。福正寺に「村山土佐守の墓」があります。

25 番福正禅寺：聖観音

金龍山福正寺は、天照林和尚が天台宗寺院として創建、通翁鏡円禅師を勧請、臨済宗寺院に改めて文禄 2 年（1318）開山したといわれています。その後、正眼寺、円福寺、砂川流泉寺を開山するなど、地域に末寺を擁し、江戸時代には寺領 10 石の御朱印状を拝領していました。



総門をくぐると、平成 10 年に建立された「三門」があります。この三門は**三解脱門**。「三解脱門」は「三つの煩惱である欲望、怒り、愚かさから抜け出す門」の意味。この門の右に四天王の多聞天（北を守護）、左に持国天（南を守護）がある。三門の前には江戸時代に建立された大きな法堂が建っておりその左前には町指定の天然記念物「たらよう」の大木がある。

観音堂：瑞穂町指定の文化財

左の坂道を上っていくと、総ケヤキ造りで優美な姿の観音堂がある。堂内の吹放の間の鏡天井には淡彩の竜の図、畳敷の間の格天井には彩色の花弁鳥獣等の絵があり、ともに入間市宮寺の人、吉川緑峰（1808～84）の筆です。江戸時代に建立された観音堂は、有名な「山口観音堂」に並ぶ、由緒ある観音堂とのこと。観音堂に立つと、南西に横田基地が見える。



五重の塔：奈良の興福寺の 7 分の 1 のサイズで作られました。

帰路：殿ヶ谷バス停(花小金井行)－東大和駅(小川・東村山)－所沢駅¥526

①15:13

15:43

16:11

②16:00

16:30

17:01